

元気企業  
訪問

吉田ピーナツ食品  
株式会社

## 中小企業にとって 使いやすい制度 30年来 利用しています

### 金融機関の借り入れとは 別枠で利用できるメリット

落花生やそら豆、大豆をはじめとする豆の加工製品やむき栗などを製造する吉田ピーナツ食品が初めて設備貸与制度を利用したのは1981年のことです。導入したのは、一定量を正確に測定して袋に詰めるコンピュータースケール。それまでの計量機と比べて、速度、正確性が格段にアップし、生産効率が倍に向上する画期的な装置だったそうです。

「非常に高額な装置でしたので、金融機関の融資、民間のリースなどと比べてより良い条件を探す中で、利率が低かったのもとても助かりましたし、貸し付けるというのではなく、支援をするという姿勢が感じられました」と代表取締役社長の吉田泰弘さんは当時を振り返ります。

これをきっかけに頻繁に設備貸与制度を活用するようになりました。金融機関から融資を受けて設備投資をすることももちろんありますが、設備貸与制度を活用すれば、金融機関の借り入れ枠や保証協会の保証枠とは別枠で利用でき、「中小企業にとってはありがたい」と話します。

### 安心、安全、品質にこだわって

同社の最大の強みは经营理念の「私たちは、安心・安全でおいしい商品を提供する」に表れている通り、「先代から引き継いだ、ものづくりを大切に作る心」と吉田社長は言います。そのためのこだわりは原材料選びから始まっています。主力の落花生については海外産の中でも、味、粒の大きさ、見た目の良さ、安全性から最高品質といわれる中国・山東省産で、さらにこくのあるおいしさを持つ「大粒規格」を使っています。

また、生産面では2003年、神戸市西区で新工場を稼働させ、最新の生産設備を導入しました。例えば、焙煎機一つとっても遠赤外線式、直火式、熱風式など5種類を保有し、豆の性質に応じて焙煎方法を変えています。本社には品質保証室、最新の検査機器をそろえた検査室も整っています。

かつて落花生のメーカーはピーク時で国内に約400社あったそうですが、現在は100社くらいまで減っているとのこと。「加工まで中国で行われる安価な製品に押されているのが現状。当社は価格競争に巻き込まれ

ないようにするために、原料、加工工程、品質管理の面でもとことんこだわって安心、安全、品質を売っています」

そうしたものづくりに向かう姿勢が評価を受け、コープブランドや大手スーパーのPB商品向けの委託生産も多くなっています。

### 制度活用し小口化対応の 包装機を導入

刻々と変化する市場のニーズに対応するために、新商品開発の手を緩め



コンピュータースケールを経てバックされた商品を確認

ることはありません。現在は、主力の豆類に健康や食べやすさといった機能性を加えると同時に、新たな商品の扱いも増やしています。むき栗もその一つ。中国河北省遷西県産の甘みの強い天津栗を石焼き製法で一層甘みを引き出して香ばしく焼きあげており、人気商品に育っています。むき栗の加工に使う、新含気調理殺菌機も設備貸与制度で導入したものです。

また、現在、商品開発のテーマとして、高齢者の人口増と単身世帯の増加への対応が求められています。同社で取り組んでいる提案の一つが「小口包装化」で、近年は設備貸与制度を活用して包装機を導入するケースが増えています。

「一人で食べ、しかも少しずつ食べるという消費者が増えていることに応えたものです。例えば、これまでは一袋100グラムで包装していた商

品を、30グラムずつ3袋に分けるといった商品を増やしています」

設備貸与制度を最初に利用したころに比べると、金融機関や民間リース会社の利率も低くなったそうですが、「公的機関から借りられているという安心感が大きいし、親身になって相談に乗ってくださる点も助かっています」と吉田社長。これからも設備貸与制度を活用して新たなニーズに伝えていこうと考えています。

会社概要  
吉田ビーナツ食品株式会社

所在地 神戸市長田区神楽町2-3-22  
代表取締役社長 吉田泰弘  
事業内容 豆菓子の製造販売

TEL 078-641-6262  
URL <http://www.yoshi-p.co.jp/>